

2021年9月14日
損害保険ジャパン株式会社

自動運転サービスの社会実装を検討する自治体向けにウェビナーを開催しました ～国土交通省、警察庁、愛知県から講演者を招いた「第3回 Level IV Discovery シンポジウム」～

損害保険ジャパン株式会社（代表取締役社長：西澤 敬二、以下「損保ジャパン」）は、アイサンテクノロジー株式会社（代表取締役社長：加藤 淳、以下「アイサンテクノロジー」）と株式会社ティアフォー（代表取締役社長：武田 一哉、以下「ティアフォー」）とともに、2021年9月10日に「第3回 Level IV Discovery（レベル フォー ディスカバリー）シンポジウム」を開催しました。

1. 目的・背景

損保ジャパン・アイサンテクノロジー・ティアフォーの3社は、2019年2月に、安心・安全な自動運転サービスの社会実装に向けたインシュアテックソリューション「Level IV Discovery」※1の共同開発を発表し、自動運転に対応した保険商品やサービスの開発と、全国各地での実証実験に向けた各種サポートの提供を進めています。

サポートのひとつとして、2020年より、自動運転の導入を検討する自治体や事業者向けに、数々の実証実験に参画するなかで得られた学びや気づきの共有や技術開発の現在の立ち位置を示すなど、豊富な実証経験と高い技術力を有する3社の情報発信の機会としてシンポジウムを開催しております。

3回目となる今回のシンポジウムでは、国が示す自動運転サービスの実装ロードマップ※2を意識し、自動運転車開発と公道での実証実験に向けた実務面に着目。社会実装を進めるうえで理解すべき各種手続きやガイドラインに関して、その策定を主導する国土交通省や警察庁にご講演いただきました。加えて、自治体を代表し、早期より実証実験の相談窓口「あいち自動運転ワンストップセンター」を設置するなど数多くの実証実験と事業者間マッチングの実績を有する愛知県より取組みをご紹介いただきました。

※1 インシュアテックソリューション「Level IV Discovery」の開発についてはこちらを参照ください。

https://www.sompo-japan.co.jp/-/media/SJNK/files/news/2018/20190215_1.pdf

※2 ITS・自動運転に係る政府全体の戦略である「官民 ITS 構想・ロードマップ」では、2025年度を目途に高速道路や生活道路などの少なくとも40カ所以上で、レベル4（高度運転自動化）の自動運転サービスを普及させる計画を示しています。

<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/it2/kettei/pdf/20210615/roadmap.pdf>

2. シンポジウムの概要

日時 2021年9月10日（金） 14:00～16:00

開催方法 オンライン開催（ウェビナー）

対象 自動運転の導入を検討される全国の自治体や企業、国の関係機関、都道府県関係機関など

主催 損保ジャパン、アイサンテクノロジー、ティアフォー

プログラム

テーマ	講演者
冒頭挨拶	損害保険ジャパン株式会社 リテール商品業務部 部長 平野 貴之
基調講演① 自動運転に関する国土交通省の取組と実証 実験における最新の手続き	国土交通省 自動車局 自動運転戦略室長 多田 善隆氏
基調講演② 自動運転の公道実証実験に係る警察の取組 について	警察庁 交通局 交通企画課 自動運転企画室 室長 伊藤 健一氏
事例紹介 愛知県の取組について	愛知県 経済産業局 産業部 産業振興課 次世代産業室 室長補佐 中野 秀紀氏
主催者講演 安心安全な自動運転の実現に向けて	株式会社ティアフォー 取締役 COO 田中 大輔氏

3. シンポジウムの様子

当日は、230名以上に参加申込みいただき、質疑応答では多くの参加者から活発な意見が寄せられました。

<ご質問（抜粋）>

- ・国土交通省や警察庁、所轄の警察など各関係機関への手続き・申請はどのように連携して進めていけば良いですか。今後、より効率的な申請プロセスの構築に向けた取り組みは予定されていますか。
- ・実証実験のフィールドを選定する基準を教えてください。
- ・安全と利便性のバランスが取れた自動運転の社会実装を進めるうえで、技術面や制度面でどのような課題がありますか。

各講演の内容については、Level IV Discovery のサイト (<https://level4-discovery.org/>) に、要約したレポートを掲載予定です。



国土交通省 多田 善隆 氏



警察庁 伊藤 健一 氏



愛知県 中野 秀紀 氏



ティアフォー 田中 大輔 氏

4. 今後について

損保ジャパン・アイサンテクノロジー・ティアフォーの3社は、今後もシンポジウムなどを通じて積極的に情報の共有化を進めることで、安心・安全な自動運転サービスの社会実装に向けての貢献を進めていきます。

以上